

都技生涯研修 2023

全都講習会

健康寿命延伸に繋がる
歯科医療と
最新テクノロジー

2023.7.23 SUN

10:00-17:00 (ZoomによるLIVE配信 ※アーカイブはありません)

配信会場 東京都歯科技工士会会館
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4階※講師の先生方は配信会場からのライブもしくは、昭和大学の研究室やご自宅からのリモート通信によるご講演となります。
※配信会場での受講もできます(15名まで事前申し込み)。講演① 睡眠時ブラキシズム:最新の知見を基盤とした合理的対応
昭和大学歯学部歯科補綴学講座 馬場 一美 先生講演② オーラルフレイルと口腔機能低下症
昭和大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門 古屋 純一 先生データ統合とフルデジタルワークフローを用いた症例の概説
—審美領域における活用法

講演③ 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 田中 晋平 先生

講演④ 昭和大学歯科病院 歯科技工室 古舘 美弥 先生

講演⑤ デジタルワークフローを用いたスポーツ歯科と矯正歯科臨床の融合
昭和大学歯学部歯科矯正学講座 芳賀 秀郷 先生

全都講習会 タイムテーブル

10:00~11:10	ご講演60分+質疑応答10分	講演① 馬場 一美 先生
11:20~12:30	ご講演60分+質疑応答10分	講演② 古屋 純一 先生
お昼休憩		
13:40~15:50	ご講演③60分+ご講演④60分 +質疑応答まとめて10分	講演③ 田中 晋平 先生 講演④ 古舘 美弥 先生
16:00~17:10	ご講演60分+質疑応答10分	講演⑤ 芳賀 秀郷 先生

【重要なお知らせ】

1. コロナウイルス感染拡大防止目的によりZoom(ズーム)システムを用いたオンラインでのセミナー開催となります。
2. 本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。
つきましては受講対象者は以下の方に限ります。
 - ① 一般社団法人東京都歯科技工士会(都技)会員
 - ② 学生
 - ③ 昭和大学職員
 - ④ 東京都在住または在勤の歯科技工士
3. オンライン受講環境がない方は東京都歯科技工士会会館において受講ができますが、環境のある方はオンラインでの受講をお願いします。

【開催コード】
基本研修申請中

【定員】

オンライン受講者 100名

会場受講者 15名(東京都歯科技工士会会館のみ)

*定員になり次第締切させていただきます。

【受講料】

800円

*上記受講対象者①~③の方は都技にて負担しますので無料となります。

*上記受講対象者④の方は事前支払い(銀行振込みのみ)となります。会場受講者のみ会場でのお支払いも可能です。

【申込方法】

◆上記受講対象者①~③の方は
右記二次元コードからお申込みください。◆上記受講対象者④の方は
右記二次元コードからお申込みください。

*上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。

*二次元コードが読み取れない方は下記アドレスまでご一報ください。

メールアドレス: togi-info@to-ginet.com

【お問い合わせ】

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

FAX 03-3576-5615 TEL 03-3576-5611

e-mail: togi-info@to-ginet.comURL: <https://www.to-ginet.com>

都技サイト

講演 ① 10:00～11:00 +質疑応答 10分

睡眠時ブラキシズム：最新の知見を基盤とした合理的対応

睡眠時ブラキシズム (sleep bruxism) は睡眠中に行われる歯ぎしりとくいしばりの総称で、咀嚼筋活動を主体とした非機能的運動であり、睡眠医学の領域では睡眠関連運動異常症 (Sleep related movement disorder) として分類されている。睡眠時ブラキシズムは成人の 10～15% 程度の頻度で認められる比較的一般的な運動異常症であるが、その結果生じる過大なメカニカルストレスは顎口腔系に破壊的に作用する可能性がある。特に歯科技工士が大きな役割を担う、補綴歯科臨床においては、歯や金属の摩耗、エナメル質やセラミックスのチッピング、歯根破折、インプラントの脱落など、睡眠時ブラキシズム関連のトラブルは枚挙にいとまがない。こうした問題を予防するためには補綴歯科治療に使用されるマテリアルを合理的に選択する必要があることは言うまでもなく、オクルーザル・スプリントを用いたフォース・コントロールも必須である。

講演では、1) 睡眠時ブラキシズムによるメカニカルストレスの有害作用の特徴、2) レジンコア・モノリシックジルコニアを中心とした補綴的対応、3) フォースコントロールのためのスプリント・デザインについて、現状で解っていること、解っていないことを整理し、それらを踏まえた上で睡眠時ブラキシズムへの合理的な対応法を解説する。合わせて、我々がやってきた睡眠時ブラキシズム発生メカニズム解明のための一連の基礎研究と診断・治療システムの構築を目指した臨床研究についても紹介し、今後の睡眠時ブラキシズム研究の方向性について考察したい。



講師 馬場 一美

昭和大学歯学部
歯科補綴学講座 教授

- 【略歴】
- 1986年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
 - 1991年 3月 東京医科歯科大学大学院修了(歯学博士)
 - 1993年 4月 東京医科歯科大学歯学部 助手
 - 1996年 4月 文部省在外研究員米国UCLA
 - 2002年 7月 東京医科歯科大学 講師
 - 2007年10月 昭和大学 歯科補綴学講座 教授
 - 2013年 4月 昭和大学歯科病院 副院長
 - 2019年 4月 昭和大学歯科病院 病院長
 - 2023年 4月 昭和大学歯学部 歯学部長
 - 2021年 6月～2023年 6月 日本補綴歯科学会理事長

講演 ② 11:20～12:20 +質疑応答 10分

オーラルフレイルと口腔機能低下症

高齢者歯科を専門として、いわゆる歯科の外来診療に加えて、在宅、病院、施設での訪問診療を行っています。訪問診療では要介護の方を診察していますが、義歯などの問題だけでなく、お口の動きに問題がある方が多くいらっしゃいます。そのため、義歯を治しても、口から好きな食べ物が食べられない方も少なくありません。口から食物を食べるとき、咀嚼と嚥下には口腔機能が重要なのですが、この口腔機能が弱くなることをオーラルフレイルと言い、要介護や全身の虚弱(フレイル)にもつながると考えられています。

入れ歯があわない、歯槽膿漏、むし歯などで歯が悪く、軟らかいものばかり食べていると、オーラルフレイルが悪化しやすくなります。また、お口の問題があると社会参加が少なくなり、精神的にも引っ込み思案になりがちです。このようにお口の問題は全身の問題にもつながりやすいので、要介護にならないためにも、元気な時から定期的なきちんと歯科に通うことで、適合の良い義歯を入れて、口腔機能を貯金しておくことが大事なのです。

歯磨きは毎日のことですので、自分で歯磨きの大事さに気がつき、自ら前向きに取り組むことが大事です。同じように、口腔機能も自分でその大事さに気がつき、自ら積極的にオーラルフレイルにならないように取り組むことが大事です。大丈夫です、フレイルは可逆性が特徴なのです。

平成30年に、公的保険に「口腔機能低下症」という病名が導入され、オーラルフレイルの可能性のある方を歯科医院で検査し、診断を受けて、口腔機能を管理できるようになりました。いまは50歳以上の方が対象となっています。義歯を製作するという歯科技工士の仕事は、実はフレイル予防にもつながっているのです。本講演では、オーラルフレイルと口腔機能低下症について、歯科技工士の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



講師 古屋 純一

昭和大学歯学部
口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門 教授

- 【略歴】
- 1996年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
 - 2000年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科高齢者歯科学修了(歯学博士)
 - 2005年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座
 - 2010年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野
 - 2013年 ハーバード大学歯学部留学
 - 2014年 岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座
 - 2015年 東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野
 - 2020年 昭和大学歯学部高齢者歯科学講座
 - 2023年 昭和大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門

- 【認定医・専門医】
- 日本老年歯科医学会専門医・指導医、日本老年歯科医学会員 ●食機療法専門歯科医師 ●日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

講演 ③ 13:40～14:40 講演 ④ 14:40～15:40 +質疑応答 10分

データ統合とフルデジタルワークフローを用いた症例の概説 —審美領域における活用法

今日の歯科医療では、診療記録、研究用模型、エックス線写真、口腔内写真などの様々な医療情報がデジタル化され、これらのデータを物理的空間の制限を受けず記憶媒体上に保存することが可能となった。さらに、ネットワークを介して送信・共有し、異なる種類のデータをソフトウェア上で統合利用することも可能となっている。

例えば、インプラント治療においては診断用CT(Computed Tomography)から得られるDICOM(Digital Imaging and Communication in Medicine)データを用いた3次元構築画像がインプラント埋入ポジションをシミュレーションするために広く活用されてきた。ディスプレイ上で立体表示される3次元画像は、360度の全方向からの観察、任意の断面画面の表示が可能であり、解剖学形態の可視性が飛躍的に向上し、専用のソフトウェアを用いてコンピュータ画面上でインプラント埋入シミュレーションを行うことが可能となり、治療の精度は飛躍的に向上した。

これは、歯冠補綴装置のデザインにおいても同様であり、CADソフトウェアの機能を最大限活用して既存の歯冠形態や歯列、顔貌形態などの異なるデータを統合・参照して利用することにより、審美領域における歯冠形態のデザインを効率的かつ精度良く行うことができる。

本講演ではこれらの審美領域の補綴治療を行った症例を供覧しながら、昭和大学歯科病院で構築されている実際のフルデジタルワークフローについて解説する。

昭和大学歯科病院では、2015年に歯科技工室にDigital Laboratoryを設立し、以来、補綴歯科治療におけるデジタルワークフローを構築してきた。特に、IOSを用いたモデルレスフルデジタルワークフローの構築に注力しており、それらの成果は英文学術雑誌に掲載されている。

しかし、モデルレスフルデジタルワークフローはすべての症例に適応できるわけではなく、いくつかの制限事項があることを理解しておく必要がある。

例えば、インプラント補綴治療において、インプラント上部構造のエマーゼンスプロファイルは、インプラント周囲組織に及ぼす影響が大きく、それらは審美的・生物学的な予後にも大きな影響を及ぼすと考えられている。そのため、最終補綴装置製作の際は、口腔内で形態最適化されたプロビジョナルレストレーションのエマーゼンスプロファイルを可能な限り転写して、最終補綴装置の形態に反映する必要がある。

従来法では印象用コーピングを加工してエマーゼンスプロファイルを作業用模型に転写するプロトコールが確立されているが、デジタル印象法では歯肉を加圧した印象採得が不可能であるため、正確な粘膜下部の形態の転写は難しいとされていた。

そこで昭和大学歯科病院歯科技工部では、3shape dental systemの追加スキャン機能を用いてプロビジョナルレストレーションのエマーゼンスプロファイルの形態をインプラント上部構造へ転写するフルデジタルワークフローを確立し、製作過程の単純化を達成することが可能となった。

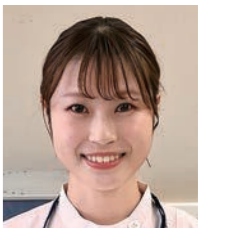
本講演では追加スキャンツールなどの、3shepe dental systemの機能を最大限に応用したデザイン手法について実際の症例を供覧しながら解説する。



講師 田中 晋平

昭和大学歯学部
歯科補綴学講座 准教授

- 【略歴】
- 2002年3月 昭和大学大学院歯学研究科 修了
 - 2002年4月～現在 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 勤務
 - 2013年4月～2019年3月 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 医局長
 - 2014年4月～2021年3月 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 講師
 - 2021年4月～ 昭和大学歯学部歯科補綴学講座 准教授
 - 昭和大学歯科病院インプラントセンター 副センター長
 - 現在に至る



講師 古舘 美弥

昭和大学歯科病院
歯科技工室

- 【略歴】
- 2018年 新東京歯科技工学校卒業
 - 2019年 新東京歯科技工学校専攻科卒業
 - 同年4月 昭和大学歯科病院歯科技工室入職

講演 ⑤ 16:00～17:00 +質疑応答 10分

デジタルワークフローを用いた スポーツ歯科と矯正歯科臨床の融合

本邦においては、2021年9月にデジタル社会形成の司令塔としてデジタル庁が発足した。歯科医療においてもIT化やDXは着実に浸透しつつあり、デジタル技術の進展は、治療の効率化や精度の向上のみならず、患者負担の軽減に寄与している。特に、口腔内スキャナーによる光学印象は、新しい治療工程を確立し、我々の日常臨床に変化をもたらした。スポーツ歯科領域においても同様で、マウスガードの製作や顎骨骨折含む顎顔面外傷への対応において、デジタルワークフローが活用されはじめています。矯正歯科臨床においても、2000年頃よりCBCTの開発やCAD/CAMの導入が始まり、3次元画像診断や手術シミュレーション、矯正歯科装置の製作・治療への応用がなされている。

一方で、デジタル化技術の導入による治療上のメリットとデメリットを明確にし、解決すべき課題を科学的に明らかにすることも我々の重要な使命である。

本講演では、昭和大学歯科病院矯正歯科およびスポーツ歯科外来におけるデジタル技術の導入と歯科技工士との連携について具体的な運用を紹介するとともに、最新の研究を交えながら、健康寿命延伸に繋がる歯科医療について議論を進めていきたいと考える。



講師 芳賀 秀郷

昭和大学歯学部
歯科矯正学講座 准教授

- 【略歴】
- 2009年3月 昭和大学歯学部歯学科卒業
 - 2014年3月 昭和大学大学院歯学研究科機能再建系歯科矯正学修了(歯学博士)
 - 2014年4月 昭和大学歯学部歯科矯正学講座 助教(員外)
 - 2015年4月 昭和大学歯学部歯科矯正学講座 助教
 - 昭和大学歯科病院スポーツ歯科外来 兼任
 - 昭和大学スポーツ運動科学研究所 兼任
 - 2019年4月 昭和大学歯学部歯科矯正学講座 講師
 - 2023年6月 昭和大学歯学部歯科矯正学講座 准教授

- 【所属団体】
- 日本矯正歯科学会 認定医/指導医 ●日本歯科審美学会 認定医 ●日本口蓋裂学会 口唇裂・口蓋裂認定師(矯正科分野) ●日本スポーツ協会 公認スポーツデンティスト ●日本スポーツ歯科医学会 認定医/認定マウスガードテクニカルインストラクター